

## 令和4年度 第2回 大津圏域地域医療構想調整会議 議事概要

日 時：令和5年3月14日（火）14：30～16：00

場 所：滋賀県 危機管理センター 1階 会議室3, 4

出席委員：重永委員、上川委員、木村委員、隠岐委員代理：大西副会長、西村委員、朴英寿委員代理：朴龍海総務部長、日野委員代理：河内理事長、小川委員、岡本委員代理：土井院長補佐、中野委員、田中委員、大伴委員、来見委員、青木委員代理：清水事務部長、柳橋委員、小椋委員、荒堀委員、高橋委員、上林委員、宇野委員、中川委員、小野委員

欠席委員：石田委員、橋本委員、細見委員

事務局：滋賀県健康医療福祉部医療政策課  
大津市保健所

### 議事の経過概要

開会宣告 14時30分

あいさつ：滋賀県健康医療福祉部医療政策課 切手課長

### 議 題

#### （1）大津圏域地域医療構想調整会議について

##### ① 公立病院経営強化プラン関係について

事務局より資料1に基づき、公立病院経営強化プランの概要を説明した後、市立大津市民病院より資料2に基づき、現時点での検討状況を含めた今後の方向性に関する説明があった。

意見交換の後、市立大津市民病院の公立病院経営強化プランを合意した。

#### 市立大津市民病院 説明概要

- 病院の理念は、「信頼の絆でつながる、市民とともに歩む健康・医療拠点」
- 病床機能は、急性期病床の運営を継続することとし、地域密着型の急性期病床を運営していく。
- 病床規模として、今後高齢者患者の増加が見込まれることや、法律により、公立病院に感染症発症・まん延時に担うべき医療提供が義務付けられていることから、その動向を見極める必要があるため、現在の病床を維持しながら休床も含めて柔軟に運用していきたい。

- 訪問看護ステーションによる在宅患者への365日対応可能なサービスの提供や健康拠点としての健診、緩和ケア病棟での取組などを実施していく。
- 機能分化・連携強化については、後方支援病院との連携を強化するとともに、高度急性期病院との連携を進めていきたい。
- 分娩については、機能分化や施設の集約の観点から大津赤十字病院・滋賀医科大学医学部附属病院に機能分化をお願いしたい。
- 診療所へ対して医師や看護師を派遣して外来診療の支援していきたい。
- 新興感染症については、第一種感染症医療機関としての役割を維持していきたい。

## ② 高度急性期・急性期病院の具体的対応方針について

事務局より資料3に基づいて説明があり、高度急性期・慢性期機能を担う病院の具体的対応方針（2025年における病床機能および病床数）について説明があった。

意見交換の後、今年度としては各医療機関の具体的対応方針を合意した。

事務局                      市立市民病院の説明について、急性期病院としての運営を進めていくとのことでしたが、急性期病院としての特徴や外来診療における役割について、現時点での考えをお聞きしたい。

委員                              病院から緩和へ向かう方に対して、自宅で暮らしていけるように訪問看護、往診も含めて在宅医療としてバックアップしていくなど緩和医療に結び付いた在宅患者を診ていきたい。現時点では、既に訪問看護ステーションが整備してあるが、往診については今後の検討課題である。

同様に、高齢者患者が増えてきて、車いすやストレッチャーで薬をもらいに来る人もいるので、地域におけるそのような患者に対しても負担が少ないようにケアしていきたい。

外来診療については、医師看護師派遣を考えており、圏域にて専門的な外来にお困りの診療所等があれば、当院から医師を派遣したり、看護教務でサポートできるようなことがあれば派遣したりすることで地域の医療関係者をバックアップしたい。

事務局 高度急性期の機能については、滋賀医科大学附属病院や大津赤十字病院との連携強化についての発言があったが、急性患者の連携・紹介について受け入れる立場として何かあれば考えや意見があればいただきたい。

委員 急性期同士の分担については、確立された分野ではないので、大津市民病院として考えられているアイデアを具体化していただけるとこちらとしても的確に対応できると考えている。

委員 急性期病院同士の連携について、お互いが持っていない機能の補完は協力しながらできると思うが、同じような機能を両者が持っている場合はどのように補完するのかは難しいところがある。

患者としても当院を信頼して来ていただいているので、同じような機能があるから別の病院に行ってくれとは言いきくところがあるため、それを踏まえて、大津市民病院がどのように急性期をやっていくのかははっきりさせてもらえると、より協力ができると思う。

議長 先ほど、訪問診療の話が出たが、医師会として大津市民病院に求めるものがあれば御発言いただきたい。

委員 南部地域での訪問診療へのバックアップ体制が弱い状況があり、今後はバックアップ体制をより充実したものにしたい。

そのため、大津市民病院にはその点も含めて検討してほしい

議長 JCHO 滋賀病院は、今の点についていかがでしょうか。

委員 当院としては、訪問看護については、拠点として順次展開している。今後は、ドクターの数もあるがバックアップ体制を整えていきたい。

委員

大津市民病院は公立病院なので、公的資金で運営していることもあるため、一般病院ができないことが求められる。

今般の新型コロナウイルス感染症対応では非常に助けられたので、そのような機能を大津市民病院に担っていただくことは地域として重要だと考える。

感染症対応の病床確保について、県・市としてどのように考えているのか教えていただきたい。

事務局

地域医療構想については、保健医療計画に基づきながら考えていく必要がある。

感染症対策は、第7次保健医療計画の中間見直しでも新型コロナウイルス感染症に対するこれまでの取組を記載しているが、次期計画では具体的に記載することになっている。

現時点での地域医療構想では、有事で備える病床については考えられていないが、この3年間で踏まえて、有事に備えるための病床の必要性や2025年に向けた急性期病床の在り方を検討する必要があるのではないかと考えている。

最終的には、感染症に対する病床の在り方についても計画に落としこむように考えていきたい。また、国に対しても、地域医療構想の数値を検証することについて意見していきたい。

事務局

感染症予防については、都道府県の感染症予防指針を踏まえて検討となっているが、国としては、予防指針を政令指定都市でも検討する必要があるとされている。

コロナ対応を通して感染症対応については、小さい地域でできるものではなく県全体で取り組むことが大事だと感じたので、予防指針を作るうえでも県と整合性と図っていきたい。

大津市民病院の感染症病床については、大津地域だけではなく県全体としても大切だと考えているので、期待させていただきたい。

委員

当院のような病院では、感染症対応として前線に立つことは難しいので、そのような機能を持つ病床についても、地域医療構想の中で考えていくことは大事だと考える。

委員 私もまったく同じ考えである。今回パニックとなった原因として、職員全員が100%の労力で業務にあたらないと利益が出ない状態で負荷が増えたことだと考える。

そのため、地域の中でゆとりのある病院を設置しておき、何か起きた時に対応できるようにしておく必要もあると考えている。それは大津市民病院にしか担えない役割だと思う。

また、急性期の全病院が、少しずつゆとりを持つということは効率的ではないと思うので、一時的に対応してもらった後に各医療機関が順次対応していく形がよいと考える。

委員 大津市民病院の緩和ケア病棟が一時受け入れを停止されたことがあったので、今後の有事の際には、そのあたりのバランスを考えて、緩和ケア病棟が継続的に回せるような病院づくりを進めてほしい。

委員 大津医療圏での滋賀医科大学附属病院の立ち位置について確認したい。

地域医療構想開始当初に、滋賀医科大学附属病院の役割については、湖南圏域と大津圏域の圏域境に位置すること、人材育成について大きく役割を担っていただくこと、全県的な立ち位置にあることから、大津医療圏の中でも役割・必要病床数を大津医療圏の枠内に押し込んでいいのかどうかということがあった。

県としての現時点での滋賀医科大学附属病院の認識としてはいかがか。

事務局 地域医療構想を策定する際には、患者の流出入を踏まえて必要病床数の推計をしているため、圏域の病床数から省いて考えることは難しいと考える。

また、どのように大学病院等を取り扱うのか一律的な整理はされていないため、圏域としてどのように取り扱うのかを検討していく必要があると認識している。

それを踏まえて、現時点での認識としては、滋賀医科大学附属病院様には、大津圏域だけでなく、全県的・県外からの患者への対応をしていただいているため、大津圏域としては高度急性期病床が多くなっているが、現段階としては、必要な機能を

担っていただいていると認識している。

事務局

現状としては、国の推計値と病床機能の報告に乖離があるところであるが、各圏域においてそれぞれの事情があることもわかってきている。

実際にこれからできることは、各医療機関の実際に行われている診療の在り方について、もう少しデータを基に分析を進めていきたいと考えている。

地域医療構想調整会議や意見交換会の中では、一定必要であるという、今のバランスを取れているのではないかと考えているが、客観的データがないのも事実なので、今後は、実際に診療にかかわっている情報を収集して、本当に必要な病床を考えていかないといけないと感じている。

具体的なことまではできないが、国の推計値も検証していきたい。推計値がいいものなのか疑問視していると思うので、県独自となるかもしれないが、圏域での病床の在り方について声とデータがそろっているのかということを検証していきたいということも考えている。

委員

医療圏での調整会議だけではなく全県的な面としての調整してもらえらると思っておりますので、全県的なマネジメントを県として実施していただきたい。

## (2) 地域医療介護総合確保基金（医療分）について

事務局より資料5に基づいて、地域医療介護総合確保基金の来年度事業について説明があった。

(質疑応答なし)

## (3) 外来機能報告について

事務局より資料6に基づいて、外来機能報告の概要と今後のスケジュール等について説明があった。

(質疑応答なし)

あいさつ：大津市保健所 中村所長

閉会宣告 16時00分

以上